

2014年度 海洋気象学会理事会・総会報告

2014年度の海洋気象学会理事会が、6月20日(金)午前10時30分から神戸市の勤労会館講習室404において開催されました。はじめに理事及び監事の異動及び、地区を異動した北村理事が引き続き理事長にあたることが報告されました。その後、理事長の議事進行により、2013年度の活動報告の説明・承認に続き、理事等から提案された、今後の学会運営のあり方、また、そのあり方にしがった機関誌の発行や諸行事開催の事業計画、予算案、会則の改正などが協議され、承認された内容を総会に諮ることになりました。主な議論については下記のとおりです。

1. 今後の学会運営のあり方

昨今の厳しい財政状況における今後の学会運営について、理事会前に各理事に示された現状をふまえ、「会費の値上げや活動の縮小などの対処策でなく、従前通りの活動は2014年度までとし、2015年度をもって活動を整理、終了(解散)する」との提案について検討されました。提案の方向については一定の理解は得られたものの、活動の整理にあたっては、その進め方やこれまでの活動の代替や受け皿を十分に検討することが必要との意見があり、このことから、「2015年度末を持って活動を整理、終了(解散)する方向で検討する。」こととしました。また、少ない繰越金から2015年度の事業は限定的にならざるをえないと想定されることから、迅速に検討を進める必要があり、「具体的な課題や手順を整理して、2014年度後半に理事会及び総会を開いて審議する」ことを加え、理事会案として、総会に諮ることとなりました。

2. 「海と空」「海の気象」の電子化

電子化、ホームページ(以下、「HP」とする)での公開を開始していた「海と空」について、国立国会図書館における電子化を踏まえて、国立国会図書館において一般公開するとともに、発行後1年を経過した論文を、まずは学会HPにおいて公開することとなりました。

「海の気象」については、「海と空」と同様、国立国会図書館において電子化が進められており、国立国会図書館と調整を行いながら、一般公開に向けて進めることとなりました。

3. 会則の改正

昨年度から業務委託を開始し、会則に定めた事務局が変わっていること、一昨年度承認された会則の改正に関連する条項の改正に不備があったこと、今後の学会運営においても選択肢とされている解散事項の記載がないことについて、改正が提案され、改正案が承認され、総会に送られることとなりました。

4. 「瀬戸内海の気象と海象」の電子化及び公開

平成25年1月刊行の「瀬戸内海の気象と海象」については、昨年、旧発行委員会から公開の提案を受けていました。刊行後1年以上が経過したことから、電子化し、学会HPにおいて一般に向けて公開することを今年度の事業として追加し、総会に諮ることとなりました。

引き続き午後2時から、神戸市の勤労会館講習室403・404において総会が開催され、会長の挨拶の後、理事会で承認され提出された議題について、日当会員（函館地方気象台）の議長のもと審議が行われ、2013年度の活動報告の承認、今後の学会運営のあり方、また、そのあり方にしたがつた機関誌の発行や諸行事開催の事業計画、予算案、会則の改正が承認されました。

[理事会・総会資料（議決版）]

報告

1 会員数報告（2014年6月1日現在）

A会員	個人	162人	(- 16)		
	団体	10団体	(+ 5)	部数	173部 (- 10)
A図書購入	団体	55団体	(± 0)	部数	64部 (± 0)
				計	237部 (- 10)
B会員	個人	36人	(- 5)		
	団体	64団体	(+ 11)	部数	235部 (+ 4)

- 2 2013年度 事業報告

1. 諸会議の開催

理事会	2013年 7月 5日	センタープラザ西館会議室（神戸市）
総会	2013年 7月 5日	〃
編集委員会（「海と空」）	2013年 7月 5日	〃
〃	2013年 12月	書面開催
〃	2014年 1月	書面開催

2. 諸行事の概要

(1) シンポジウム

ア 北海道・東北地区シンポジウム（大槌シンポジウム） （東京大学大気海洋研究所と共催）

日時：2013年 8月27日(水)、28日(目)

場所：中央公民館（岩手県大槌町）

テーマ：北太平洋を中心とした海洋の循環とその変動

講演数：15題

イ 九州・沖縄地区合同シンポジウム

（日本海洋学会西南支部・水産海洋学会と共催）

日時：2013年12月13日(金)

場所：佐賀大学本庄キャンパス（佐賀市）

テーマ：九州周辺沿岸域における海洋フロント
講演数：13題

(2) 例会

ア 第1回例会

日時：2013年 7月 5日(木)
場所：センタープラザ西館会議室(神戸市)
講演数：5題

イ 第2回例会(日本気象学会関西支部、大阪管区気象台気象研究会と合同開催)

日時：2013年12月17日(月)
場所：大阪合同庁舎第四号館共用会議室(大阪市)
講演数：15題(海洋気象学会から10題)

(3) 船舶気象懇談会

第56回船舶気象懇談会(一般社団法人日本船長協会と共催)

日時：2014年 2月 1日(金)
場所：神戸郵船ビル 多目的ルーム(神戸市)
講演数：2題
講演「巨大船、特殊船型船(PCC)の操船」
一般社団法人日本船長協会 北里常務理事
講演「海洋と地球温暖化」
海洋気象学会 高谷理事

3. 機関誌の発行状況

機関誌名	巻号数	発行年月日	頁数		
海と空	第89巻 第1号	2013年 7月31日	41頁		
〃	第89巻 第2号	2013年12月31日	44頁		
〃	第89巻 第3号	2014年 3月31日	48頁	合計	133頁
海の気象	第59巻 第1号	2013年 9月30日	28頁		
〃	第59巻 第2号	2014年 1月14日	31頁		
〃	第59巻 第3号	2014年 3月24日	18頁	合計	77頁

4. 「海と空」の電子化とホームページ上での公開

「海と空」のホームページでの公開について、既存の公開分に加えて、第86巻(2010年度)～第88巻(2012年度)の電子化ファイルを掲示、公開した。

なお、国立国会図書館における電子化の状況を勘案し、過去分の電子化は中止している。

5. 編集委員会(「海と空」)

「海と空」の発行前に開催（メールによる書面開催を含む）し、掲載内容等について検討・承認した。また論文受付時には、査読者を推薦・依頼し、査読を引き受けていただいた。

九州・沖縄地区合同シンポジウムでの発表をもとにした投稿について、シンポジウム「対馬海峡」特集号への掲載を、承認した。

6. その他

- ・会員名簿

会員名簿については、個人情報保護の観点から、作成を見合わせている。

- 3 2013年度 決算報告

2013年4月1日から2014年3月31日

科 目	予算額	決算額	差異	備 考
収入の部				
1. 前年度繰越金	3,170,916	3,170,916		
2. 会費	2,425,500	2,094,000	331,500	過年度分会費分 当年度分会費分 前受け会費分
		144,000		
		1,945,500		
		4,500		
3. 機関紙販売収入	0	427,500	427,500	過年度分会費分 当年度分会費分
		162,000		
		265,500		
4. 広告料収入	60,000	60,000	0	海の気象広告料
		60,000		
5. 雑収入	20,000	209,788	189,788	バックナンバー販売 瀬戸内海の気象と海象 労働保険料還付金 寄付金 受取利息 別刷料金 許諾抄録料 頁超過分 掲載カラー印刷
		20,160		
		71,520		
		9		
		70		
		449		
		4,800		
		3,780		
		40,000		
		69,000		
当期収入合計(A)	5,676,416	5,962,204	285,788	
支出の部				
1. 管理・運営費	2,075,171	2,029,013	46,158	
運営費	1,351,171	1,340,957	10,214	事務局業務 事務局閉鎖に伴う経費 事務局委託初期費用
	1,094,971	1,084,757		
	98,700	98,700		
	157,500	157,500		
会議費	75,000	62,529	12,471	総会・理事会等 例会
	75,000	61,930		
		599		
旅費・交通費	511,000	389,260	121,740	会計監査 理事会 海と空編集委員会 事務局引継ぎ 船舶気象懇談会 その他
	1,000	1,000		
	300,000	361,760		
	200,000	0		
		2,000		
		24,500		
	10,000	0		
通信費	108,000	176,927	68,927	郵便料・ホームページ運用 封筒 電話料 電子メール料 発送代 その他
	53,000	75,440		
	45,000	86,100		
		6,156		
		7,786		
		1,445		
	10,000	0		
事務費	30,000	59,340	29,340	消耗品、事務費 諸費 振込等手数料
		5,655		
		51,900		
		1,785		
2. 事業費	1,580,000	1,928,141	348,141	
行事費	250,000	75,840	174,160	例会開催経費 シンポジウム
	50,000	0		
	200,000	75,840		
編集費	80,000	20,700	59,300	海と空 海の気象
	20,000	14,680		
	60,000	6,020		
印刷費	1,150,000	1,679,946	529,946	海と空 海の気象
	500,000	733,440		
	650,000	946,506		
発送費	100,000	151,655	51,655	海と空 海の気象
	50,000	86,380		
	50,000	65,275		
3. 次年度繰越金	2,021,245	2,005,050	16,195	
当期支出合計(B)	5,676,416	5,962,204	285,788	
当期収支差額(A)-(B)	0	0		


監 査 報 告

海洋気象学会会則第 15 条に基づき 2013 年度の収支決算状況を監査しました結果、いずれも適正・正確に処理されていたことを報告します。

2014 年 6 月 9 日

海洋気象学会

監事 林 美穂 

監事 坂田 一言 

提出議題

1 今後の学会運営のあり方

昨今の厳しい財政状況における今後の学会運営について、理事会において検討した結果、以下のとおり提案する。

[現状]

- ・2013年度の決算において、当初の予算案通り、100万円程度の支出超過となった。
- ・2014年度の予算について、節約を図りつつも事業内容に大きな変更は加えない形であっても欠損が見込まれ、繰越金の減少から、2015年度の事業が立ち行かない見込みである。
- ・今までの水準の学会活動を続けつつ、収支を大きく改善させる効果的な手だてが見いだせない。
- ・学会の運営自体も次第に困難さが強まっている現状にある。
- ・機関誌掲載の論文等については、電子媒体として国立国会図書館での保存、閲覧に一定の目処がつきつつある。
- ・論文発表の場や共催講演会等の活動については、代替の受け皿や手段が見いだせそうである。

[提案]

会費の値上げや活動の縮小などの対処策ではなく、従前どおりの活動は2014年度までとし、2015年度末をもって活動を整理、終了（解散）する方向で検討を行う。具体的な課題、手順を整理し、2014年度後半に理事会・総会において審議する。

- 1 - 1 2014年度 事業計画(案)

1 機関誌等の発行

(1) 海と空(第90巻:第1~3号(九州・沖縄地区シンポジウム特集号を含む))

総頁数 : 約180頁

編集方針: 海洋気象及びこれに関連する幅広い記載に努める。論文投稿を積極的に呼び掛ける活動を実施する。

(2) 海の気象(第60巻:第1~3号)

総頁数 : 約100頁

編集方針: 海洋気象全般にわたる知識の普及・向上並びに体験の交換を目的とし、平易な内容とすると共に海事関係者の要望に応じた内容を取り入れる。

2 諸行事の開催

(1) シンポジウム

ア 北海道・東北地区シンポジウム(大槌シンポジウム)

日時: 2014年8月26日(火)~27日(水)

場所: 中央公民館(岩手県大槌町)

テーマ：北太平洋を中心とする循環と水塊過程

イ 九州・沖縄地区合同シンポジウム

日 時：2014年12月 5日（金）

場 所：琉球大学（沖縄県）

テーマ：東シナ海及びその周辺海域のリモートセンシングによる気象・海洋観測

（2）例会 2回（6月20日及び12月頃を予定）

（3）船舶気象懇談会 1回（社団法人日本船長協会と共催、2015年2月頃を予定）

3. 「海と空」「海の気象」の電子化

2013年度に、「海と空」のすべての論文についての電子化を進め、ホームページでの公開を決定していたが、国立国会図書館における電子化（公開は国会図書館内での閲覧に制限）が判明した。編集委員会からの一般公開への処置についての申し出を受け、理事会の意見集約のうえ、国立国会図書館に公開を要請し、現在、国立国会図書館での公開に向けて、学会及び国立国会図書館で作業中である（学会としては、個人情報にかかるとの公開制限の指定等）。

発行後1年を経過した論文については、引き続きホームページでの公開を行う（国立国会図書館は、公開された電子ファイルを自動収集する）。

「海の気象」についても、国立国会図書館において一部抜けがあるが、第12巻（1967年）から第45巻（2000年）までが電子化され、著作権の許諾の関係から公開に制限がかかっているものの公開（閲覧）されていることが判明した。このことから、編集委員会において、国立国会図書館における早期の一般公開を推進するとの結論となっている。

このことをうけ、「海の気象」の記事等の著作権の移譲（今後の記事については、当初から学会帰属とする）を進める予定である。ただし、「海と空」の論文等と違い、承諾を得ていない引用等がされた記事等も多く、一律に公開とすることは難しいことが懸念される。

4. 「瀬戸内海の気象と海象」の電子化及びホームページでの公開

2013年1月に刊行された「瀬戸内海の気象と海象」について、刊行後約1年半が経過することから、機関誌「海と空」と同様、電子化し、学会ホームページにおいて公開する。

- 1 - 2 2014年度予算(案)

(2014年4月1日から2015年3月31日)

(単価:円)

科 目	金 額	摘 要	
収入の部			
1 前年度繰越金	2,005,050		
2 会費	2,152,500	A会費6,000円×160人・団体	960,000
		B会費4,500円×210口	945,000
		「海と空」定期購入1,500円×3冊×55口	247,500
3 広告料収入	60,000	海の気象広告料	60,000
4 雑収入	20,000	バックナンバー販売等	20,000
収入合計(A)	4,237,550		
支出の部			
1 管理・運営費	1,754,829		
運営費(事務局業務)	978,129	あゆみコーポレーション 事務局業務 (以上見積から)	978,129
会議費	75,000	総会費・理事会費等	75,000
旅費・交通費	513,000	会計監査	3,000
		理事会	500,000
		その他	10,000
通信費	93,700	郵便料・ホームページ運用	53,700
		その他	40,000
事務費	95,000	消耗品、雑費ほか	95,000
2 事業費	1,715,000		
行事費	225,000	例会開催経費	50,000
		シンポジウム経費(各地区補助含む)	175,000
編集費	40,000	海と空	20,000
		海の気象	20,000
印刷費	1,350,000	海と空(3冊発行) (昨年度は3冊)	600,000
		海の気象	750,000
発送費	100,000	海と空 送料(3冊発行) (昨年度は3冊)	50,000
		海の気象 送料	50,000
3 予備費	0		
4 次年度繰越	767,721		
支出合計(B)	4,237,550		
収支差額	0		

- 2 会則の改正

- (1) 会則で規定している事務局については、昨年度から業務委託により「あゆみコーポレーション」内においていることから、第2条を下記のとおり改める。

第2条 本会の事務局は神戸海洋気象台、業務委託先である「あゆみコーポレーション(大阪市西区土佐堀 1-4-8 日栄ビル 703A 号室)」内におく。また必要と認める地に支部を置くことができる。

- (2) 2012年度の総会において承認され、2013年4月1日から改正・適用されたA会員の区分に関して、改正された第5条に関連する第8条の改正に不備があったことから、下記のとおり改める。

第8条 A・B会員は下記の会費を前納しなければならない。既納の会費は如何なる事情があっても返却しない。

1. A個人会員 年6,000円 , B会員 年4,500円
2. A個人会員のうち学生(大学生,大学院生,または学生と認められる者)は,会費の半額を免除する。これを学生会員と称する。学生会員は年度ごとの会費納入の際に,在学証明証又は学生証明証の写しを提出しなければならない。

- (3) 現行の会則においては解散に関する規定が定められてない不備を指摘されている。また、今後の学会の運営についての検討において、解散も選択肢の一つとされている。これらのことをふまえて、解散にかかる規定を設ける。

第18条 次の事項は総会の議決を経なければならない。

事業計画及び予算

会則の変更

事業及び決算報告

解散

― その他理事会において必要と認めた事項

第19条 総会及び理事会の議決は出席者の過半数による。ただし会則の変更及び解散は出席者の3分の2の同意を要する。

第20条 解散にともなう事業等の整理等については,第13条で定める会の運営に必要な事項とし,理事会において決議する。

第201条 本会の維持は会費,事業に伴う収入,寄付金その他による。

- (4) 会計年度を規定している第21条について、期間について誤解を与えないよう明確にする。なお、上記(2)の改正により、第21条を第22条とする。

第242条 本会の会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする。